

令和6年度

学習シラバス



新座市立第三中学校

1 学年

各教科の1年間の学習内容や目標、評価の観点などが記載されています。

各教科は、このシラバスに基づいて学習を進めていきます。



創立40周年記念マスコットキャラクター

Sunちゃん

令和6年度

通知表の評価・評定

新学習指導要領から通知表の評価項目が変更になり、3観点で評定を決めることとなりました。学校の通知表の評定をどのような仕組みで決めているかを説明します。通知表をご覧になる際の参考にしていただければ幸いです。

通知表の観点別評価について

各教科には、評価をするための3つの観点が決められています。観点ごとに、生徒の学習状況（主体的に学習に取り組む態度、忘れ物など）、テストの結果、提出物の内容、作品、授業中の発言内容、自己評価シートの内容などを参考に、ABCの三段階で評価します。

観点別評価項目

各教科の「観点別評価項目」及び「評価の方法・参考とする資料」は以下のようになっています。

	観点別評価項目	評価方法・参考とする資料
国語	知識・技能	定期テスト、小テスト、書写の技能、暗唱、ワークの取り組みなど
	思考・判断・表現	授業中の言語活動（書く、読む、話す、聞く）の活動内容、定期テスト、まとめレポートなど
	主体的に学習に取り組む態度	取り組みの様子、発表や課題の内容、レポートによる理解度の深まりなど
社会	知識・技能	定期テスト、単元テスト、レポート、授業への取り組みなど
	思考・判断・表現	定期テスト、単元テスト、レポート、授業への取り組みなど
	主体的に学習に取り組む態度	定期テスト、単元テスト、レポート、授業への取り組みなど
数学	知識・技能	定期テスト、単元別テスト、提出物の内容など
	思考・判断・表現	定期テスト、単元別テスト、提出物の内容など
	主体的に学習に取り組む態度	取り組みの様子、定期テスト、単元別テスト、提出物の内容など
理科	知識・技能	技能テスト、ノートやレポートの内容、定期テストなど
	思考・判断・表現	口頭テスト、ノートやレポートの内容、定期テストなど
	主体的に学習に取り組む態度	授業の取り組みの様子、ノートやレポートの内容、定期テストなど
音楽	知識・技能	ワークシートの内容、鑑賞レポートの内容、定期テスト、実技テストなど
	思考・判断・表現	ワークシートの内容、鑑賞レポートの内容、定期テストなど
	主体的に学習に取り組む態度	授業の取り組みの様子、話し合い活動の様子、ワークシートの内容など
美術	知識・技能	取り組みの様子、作品（作成過程、完成）の様子、発言の内容など
	思考・判断・表現	取り組みの様子、鑑賞の内容、記述の内容、スケッチの内容など
	主体的に学習に取り組む態度	発言の内容、取り組みの様子、記録、スケッチや振り返りシートの内容など
保健 体育	知識・技能	運動技能、単元ごとの技能の到達度や記録値、動きを獲得している姿 定期テストの内容など
	思考・判断・表現	学習カード内容、活動内容（課題解決の取り組み） 設定された活動を自分なりに工夫し行動や言葉として表出される姿勢など
	主体的に学習に取り組む態度	授業の用具の準備・片付けをしっかりと行っているか。 授業への課題解決に向けて進んで取り組もうとする姿勢
技術 家庭	知識・技能	テスト（ペーパーテスト、実技テスト）、製作品（製作過程、完成）の様子、発言やレポートの内容など
	思考・判断・表現	学習ノートや発言、レポートの内容、作業計画表、記録カード、テスト（ペーパーテスト、実技テスト）など
	主体的に学習に取り組む態度	授業の取り組みの様子、学習ノートや振り返りカード、作業記録カード、レポートの内容など
外国語	知識・技能	パフォーマンステスト、ワークシートの内容、文法・発音の正確さ、定期テストなど
	思考・判断・表現	パフォーマンステスト、ワークシートの内容、発言内容の適切さ、定期テストなど
	主体的に学習に取り組む態度	取り組みの様子、パフォーマンステスト、振り返りカード・ワークシート・提出物の内容、表現の工夫など

観点別評価ABCの決め方

次の観点別評価を三段階で行うときのA、B、Cの評価判定基準について説明します。単元ごとに観点別評価を行い、その評価の平均値により各学期の観点別評価を算出しています。教科ごとに多少異なりますが、前ページで述べた「評価の方法・参考とする資料」を参考に点数化して、ABCを決定しています。おおよその目安は以下のとおりです。

評価の点数化	各単元の評価を基にして 出す平均値の範囲	評価
A → 3	平均値 > 2.5	A
B → 2	2.5 ≥ 平均値 ≥ 1.5	B
C → 1	1.5 > 平均値	C

A : 十分満足できる状況

B : おおむね満足できる状況

C : 努力を要する状況

通知表 教科の評定について

以下では、評価の組み合わせによる評定の基準を示します。評定は、観点別評価の結果を総括したもので、3個のABCの組合せによって決められます。

観点別評価から評定の決め方

観点別評価の組み合わせから決定する評定は、以下の通りになります。学校で定めた一律の組み合わせになります。あくまで評価の組み合わせで評定が決まるので、評価の順番によって評定が変わることはありません。

【学期末・学年末の評価・評定一覧】

評価の組み合わせ	評定
AAA	5
AAB	4
ABB BBB BBC	3
BCC	2
CCC	1

※新学習指導要領、国立教育政策研究所の資料より3観点（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）が相互に関わっているため、**AとCは混在しません。**

第1年 教科名（国語）の学習について（シラバス）

◎教科の目標

- ・基礎的な学力の定着を図る。
- ・言語についての知識を身につけさせ、理解できるようにさせる。

◎生徒にがんばってほしいこと

- ・丁寧な日本語を話すこと。
- ・正しく聞き取ったり、理解したりすること。
- ・主述の整った文を書くこと。（話し言葉と書き言葉の違い）
- ・漢字小テストの取り組み。

◎学習内容

1 学期	2 学期	3 学期
<p>朝のリレー</p> <p>言葉に出会うために 野原は歌う 声を届ける</p> <p>1. 学びをひらく シンシュン 情報を的確に聞き取る 季節のしおり 春 情報整理のレッスン 情報を整理して書こう 漢字の組み立てと部首</p> <p>2. 新しい視点で ダイコンは大きな根？ ちょっと立ち止まって 思考のレッスン 話の構成を工夫しよう 好きなことをスピーチで紹介する 漢字に親しもう 2 文法への扉 1</p> <p>3. 言葉に立ち止まる 情報を集めよう 詩の世界 比喩で広がる言葉の世界</p>	<p>4. 心の動き 大人になれなかった弟たちに… 星の花が降るころに 聞き上手になろう 項目を立てて書こう</p> <p>5. 筋道を立てて 「言葉」を持つ鳥、シジュウカラ 根拠を示して説明しよう 話題や展開を捉えて話し合おう 漢字に親しもう 3</p> <p>6. いにしへの心にふれる いろは歌 古典の世界 蓬萊の玉の枝 —「竹取物語」から 今に生きる言葉 書き初め</p>	<p>7. 価値を見いだす 「不便」の価値を見つめ直す 助言を自分の文章に生かそう 漢字に親しもう 文法への扉 2 読書に親しむ</p> <p>8. 自分を見つめる 少年の日の思い出 随筆二編 文法への扉 3 構成や描写を工夫して書こう さまざまな表現技法 一年間の学びを振り返ろう 漢字の成り立ち 漢字に親しもう 6 さくらははなびら</p>

<p>言葉 1 指示する語句と接続する語句</p> <p>言葉を集めよう</p> <p>読書を楽しむ</p> <p>硬筆</p>		
--	--	--

<p>観点</p> <p>1. 主体的に取り組む態度 ……</p> <p>取り組みの様子、発表、課題の内容、まとめレポートによる理解度の深まりなど。</p> <p>2. 思考・判断・表現 ……</p> <p>(話す・聞く) 話し合い、スピーチ、聞き取りテスト、討論会、ビブリオバトルなど。</p> <p>(書く) 意見文、手紙、物語文など様々な文章を書く能力。ノートの取り方やまとめ方。定期試験の記述問題など。</p> <p>(読む) 作品の理解(読み取り)、定期試験の文章問題など。</p> <p>3. 知識・技能 ……</p> <p>漢字・語句の知識理解、文法の理解、書写の技能、漢字テスト、暗唱など。定期試験の記述問題など。</p> <p>観点別評価 【 A・B・C 】の3段階</p> <p>A おおむね 8割以上の達成度 B おおむね 4割以上の達成度 C それ以外</p>
--

第1学年 社会科の学習（シラバス）

◎社会科の目標

・広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会に形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

◎生徒にがんばってほしいこと

地理的分野では、世界の様々な地域の学習に取り組みます。内容は世界の地域構成・世界各地の人々の生活と環境・世界の諸地域（アジア・ヨーロッパ・アフリカ・北アメリカ・南アメリカ・オセアニア）・世界の様々な地域の調査学習です。教科書・地図帳、資料集を活用する力をつけてほしいと考えています。また歴史的分野では、「世界の古代文明と日本の国家の形成」から始まり近代の日本の「江戸幕府の政治の特色」までの学習に取り組みます。すべての事柄には歴史的な連続性や先人のより良い生活を営むための苦勞、工夫、科学的な考え方、あるいは文化的な考え方、感じ方があることに関心を深めてほしいと思います。そのためにも「なぜ？」と考える習慣を養ってほしいものです。

社会科は、暗記教科などと言われることがありますが、本来は自分の考え方を鍛える教科です。授業で学んだことについて、自分はどう思うかを問いかけながら、勉強をしてほしいと思います。

◎学習内容

1 学期	2 学期	⑤南アメリカ州
<p>(地理的分野) I 世界と日本の地域構成 1 世界の姿 ・私たちの住む地球を眺めて ・いろいろな国の国名と位置 ・緯度と経度 ・地球儀と世界地図の違い 2 日本の姿 ・世界の中での日本の位置 ・時差でとらえる日本の位置 ・日本の領域とその特色 ・都道府県と県庁所在地 II 世界のさまざまな地域 1 人々の生活と環境 ・世界の様々な生活と環境 ・暑い地域の暮らし ・乾燥した地域の暮らし ・温暖な地域の暮らし ・寒い地域の暮らし ・高地の暮らし ・世界各地の衣食住との変化 ・人々の生活と宗教の関わり</p> <p>(歴史的分野) 1 歴史へのとびら ・時期や年代の表し方 ・歴史の流れのとらえ方 ・時代の特色のとらえ方 2 古代までの日本 ①世界の古代文明と宗教のおこり ・人類の出現と進化 ・古代文明のおこりと発展 ・中国文明の発展 ・ギリシャ・ローマの発展 ・宗教のおこりと三大宗教 ②日本列島の誕生と大陸との交流 ・旧石器時代と縄文時代の暮らし ・弥生時代の暮らしと邪馬台国 ・大王の時代</p>	<p>(歴史的分野) 2 古代までの日本 ③古代国家の歩みと東アジア世界 ・聖徳太子の政治改革 ・東アジアの緊張と律令国家への歩み ・律令国家の成立と平城京 ・奈良時代の人々の暮らし ・天平文化 ・平安京と律令国家の変化 ・摂関政治の時代 ・国風文化</p> <p>(地理的分野) II 世界のさまざまな地域 2 世界の諸地域 ①アジア州 ・自然環境 ・農業・文化と経済発展 ・経済成長を急速に遂げた中国 ・最も近い隣国、韓国 ・経済発展を目指す東南アジア ・産業発展と人口増加が急速に進む南アジア ・資源が豊富な中央アジア・西アジア ②ヨーロッパ州 ・自然環境 ・文化の共通性と多様性 ・EUの成り立ちとその影響 ・農業とEUの影響 ・工業とEUの影響 ・EUが抱える課題 ③アフリカ州 ・アフリカ州の自然環境 ・歴史と文化 ・特定の輸出品に頼るアフリカ経済 ・抱える課題とその取り組み ④北アメリカ州 ・自然環境 ・移民の歴史と多様な民族構成 ・大規模な農業と多様な農産物 ・世界をリードする工業 ・アメリカ合衆国にみる生産と消費の問題</p>	<p>⑥オセアニア州 ・自然と環境 ・移民の歴史と多文化社会への歩み ・他地域と結び付いて発展する産業</p>
		3 学期
		<p>(歴史的分野) 3 中世の日本 ①武士の政権の成立 ・武士の成長 ・院政から武士の政権へ ・鎌倉幕府の成立と執権政治 ・武士と民衆の生活 ・鎌倉時代の文化と宗教 ②ユーラシアの動きと武士の政治の展開 ・モンゴル帝国とユーラシア世界 ・モンゴルの襲来 ・南北朝の動乱と室町幕府 ・東アジアの交流 ・産業の発達と民衆の生活 ・応仁の乱と戦国大名 ・室町文化の広がり 4 近世の日本 ①ヨーロッパ人との出会いと全国統一 ・中世ヨーロッパとイスラム世界 ・ルネサンスと宗教改革 ・ヨーロッパ世界の拡大 ・ヨーロッパ人との出会い ・織田信長・豊臣秀吉による統一事業 ・兵農分離と秀吉の対外政策 ・桃山文化</p>

◎評価について

<p>1 「主体的に学習に取り組む態度」の評価 (1) 授業規律 ①チャイム着席 ②授業道具の用意 ③授業態度 (3) レポート・ファイル（ノート）・ワーク等の内容…学期1回程度</p> <p>2 「社会的な思考・判断・表現」の評価 (1) 定期テスト・単元テストの結果 (2) レポート・ファイル（ノート）・ワーク等の内容…学期1回程度 (3) 授業中の発言・発表内容など</p> <p>3 「社会的事象についての知識・技能」の評価 (1) レポート・ファイル（ノート）・ワーク等の内容…学期1回程度 (3) 授業中の発言・発表内容など</p> <p>4 評定について 上記の1～3の観点別評価を総合して評定を出す</p>	<p>(2) 授業中の発言、発表の内容 (4) 定期テスト・単元テストの結果など</p> <p>(2) 定期テスト・単元テストの結果</p>
--	--

第1学年 数学科の学習（シラバス）

◎数学科の目標 （生徒像）

- ・積極的に授業に参加できる生徒
- ・計算やグラフ、作図が正確に確実にできる生徒
- ・最後まであきらめず、粘り強く考えることができる生徒
- ・他人の考え方をしっかり聞き、互いに協力できる生徒

◎生徒に頑張ってもらいたいこと

数学が楽しく学習できるよう授業を大切に取組んでほしいと思っています。まず、家庭で少しでもいいので復習を行うことが大切です。さらに、数学が数楽となるように楽しく数を学べるように学習していこう。数字に興味関心を持ってほしいと思います。数の美しさ、答えを導くことの喜びを感じてほしいと思っています。数学は計算なしには成り立たないので、計算力をしっかり身につけていけるよう毎回の授業での小テストを真剣に取り組んでください。

◎学習内容

1 学期	2 学期	3 学期
<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・小学校の復習 0章 整数の性質 1章 正負の数 <ul style="list-style-type: none"> ・正負の数 ・加法と減法 ・乗法と除法 ・正負の数の利用 2章 文字と式 <ul style="list-style-type: none"> ・文字を使った式 ・文字式の計算 ・文字式の利用 3章 方程式 <ul style="list-style-type: none"> ・方程式とその解き方 	<ul style="list-style-type: none"> ・1次方程式の利用 4章 比例と反比例 <ul style="list-style-type: none"> ・関数 ・比例 ・反比例 ・比例と反比例の利用 5章 平面図形 <ul style="list-style-type: none"> ・図形の移動 ・基本の作図 ・おうぎ形 6章 空間図形 <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな立体 	<ul style="list-style-type: none"> 6章 空間図形 <ul style="list-style-type: none"> ・立体の見方と調べ方 ・立体の表面積と体積 7章 資料の分析と活用 <ul style="list-style-type: none"> ・資料の分析 ・累積度数 ・統計的確率

◎評価・評定

（1）観点別評価について		（2）評価について
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ◇各領域で扱う基本的な概念や定理・法則また、用語の意味を理解している ◇いろいろな計算問題や図形の基本的な問題が解ける 	定期試験（中間、期末、小テスト）等、提出物（授業ノート、問題集、宿題、振り返りシートなど）等を各観点について総合的に判断する。
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ◇多様な考えで問題を解こうとする ◇既習事項を活用して関連付け問題を解くことができる 	5：十分満足できるもののうち、特に程度が高い 4：十分満足できる
③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ◇他の観点を身につけるため粘り強い取り組みを行うおうとする ◇上記のことを行う中で、自らの学習を調整しようとする 	3：おおむね満足できる 2：努力を要する 1：一層努力を要する

第1学年 理科シラバス

○ 教科の目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

観点	育成を目指す資質・能力
知識及び技能	・自然の事物・現象に対する概念や原理・法則の理解、 ・科学的に探究するために必要な観察・実験等の技能
思考力、判断力、表現力等	・科学的に探究する力
学びに向かう力、人間性等	・科学的に探究しようとする態度

○ 学習内容

理科A (全クラス 関根先生)	理科B (1, 2, 3組 関根先生) (4, 5, 6, 7組 澤山先生)
単元2 物質のすがた	単元1 生物の世界
1章 いろいろな物質 2章 気体の発生と性質 3章 物質の状態変化 4章 水溶液	1章 身近な生物の観察 2章 植物のなかま 3章 動物のなかま
単元4 大地の変化	単元3 身近な物理現象
1章 火山 2章 地震 3章 地層 4章 大地の変動	1章 光の性質 2章 音の性質 3章 力のはたらき

※本校では、「理科A」・「理科B」の2つに分け、2分野並行型で授業を進めます。

※理科の授業は1週間に3時間。

(理科Aが1時間、理科Bが1時間、もう1時間はAとBを週替わり)

令和6年度 第1学年 音楽科の学習（シラバス）

◎音楽科の目標 (生徒像)

- ・授業を通して音楽の楽しさを体感し、音楽への興味・関心を持つ
- ・音楽の楽しさや美しさを感じ、表現する技術を身につけ、自分の音楽を表現しよう
- ・様々な音楽に親しもう

◎生徒に頑張してほしいこと

- ・授業を真剣に受ける態度
- ・歌唱や合唱、器楽での、基礎的な技術力
- ・積極的に工夫しながら作っていく創作活動への姿勢
- ・自ら楽しみ味わう鑑賞の態度
- ・表現や鑑賞に必要な音楽の基礎的な知識・理解

◎学習内容

1 学 期	2 学 期	3 学 期
<ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・級友とともに歌う喜びを味わい、音楽学習への意欲・態度を育てる 「校歌」 「We'll Find The Way」 ○イメージと音楽 <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の特徴を捉え、鑑賞する能力を高める 「春」 ○リズムに親しもう <ul style="list-style-type: none"> ・ボディーパーカッションの演奏を通してリズムの表現力を高める ○響きのある歌声 <ul style="list-style-type: none"> ・混声合唱の響きや発声法について学ぶ ・混声合唱の基礎を学び、歌えるようにする 「パフ」等 	<ul style="list-style-type: none"> ○混声3部合唱に親しもう <ul style="list-style-type: none"> ・校内合唱祭への取り組みを通し、表現力を高め、合唱を愛好する心情を育てる 「夢の世界を」「クラス曲」 ○イメージと音楽 <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の特徴を捉え、鑑賞する能力を高める 「魔王」 ○日本の歌を歌いごう <ul style="list-style-type: none"> ・詩と音楽が一体となった美しさを感じ取って表現する 「赤とんぼ」「浜辺の歌」 ○創作活動 <ul style="list-style-type: none"> ・まとまりのある旋律をつくろう 「My Melody」 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の伝統音楽に親しもう <ul style="list-style-type: none"> ・日本の楽器に親しみ、日本の伝統音楽を愛好する心情を育てる 実技「さくらさくら」 鑑賞「箏曲六段の調」 ○映画音楽に親しもう <ul style="list-style-type: none"> ・場面を想像しながら鑑賞する 「ジョーズ」ほか ○アジアの音楽 <ul style="list-style-type: none"> ・アジア各地の伝統音楽について知り、日本との共通点や相違点を感じ取り味わう

◎評価・評定について

- ・評定
 - 実技テスト、筆記テスト、鑑賞レポート、提出物、授業観察等をもとに、総合的に評価します
- ・観点別評価

〈知識・技能〉	授業観察、実技テスト、筆記テスト、ワークシート、鑑賞レポート等
〈思考・判断・表現〉	授業観察、筆記テスト、ワークシート、鑑賞レポート等
〈主体的に学習に取り組む態度〉	授業観察、ワークシート、鑑賞レポート、自己評価カード等

新座座市立第三中学校 令和6年度 第1学年 美術科 シラバス

1. 教科の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

2. 年間計画

学期	題 材 名	学 習 内 容
1	見ることからの発見	身近なものに関心を持ち、よさや美しさを表現することを楽しむ。
	心ひかれる風景	身近な場所を表すことに関心を持ち、感じ取った良さや美しさを表現することを楽しむ。
	人の姿・動き	身近な人に関心を持ち動きやポーズなどから、表したいことを考え表現することを楽しむ。
2	よみがえる材料	身のまわりの材料の形や色彩から創造を広げ、面白さに関心を持ち、表現することを楽しむ。
	生命力を感じて	表したいものの特徴から発想を広げ、生き生きとした姿を表現することに関心をもつ。
	伊藤若冲の世界	作品のよさや美しさを感じ取り、若冲の意図や表現の工夫について考え、若冲の作品を楽しく鑑賞しよう。
3	ロゴマークで印象づける	身近なロゴタイプやシンボルマークに関心を持ち、相手に伝える目的や機能をもとに、ロゴタイプやシンボルマークを考える。

3. 評価の観点 A：「十分満足できる」 B：「おおむね満足できる」 C：「努力をようする」

評価の観点	観点の内容	評価の方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 対象や自称を捉える造形的な視点について理解している。 表現方法を創意工夫し、創造的に表している。 	行動観察・対話・表現・作品
思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	行動観察・対話・表現・記述・スケッチ
主体的に学習に取り組む態度	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現活動に取り組もうとしている。	行動観察・対話・表現・記録・スケッチ・自己評価表

第1学年 教科名（保健体育）の学習について（シラバス）

■教科の目標

- ・運動に親しみ、主体的に学習に取り組む生徒
- ・健康や安全に留意して、健康の増進と体力向上に努めることのできる生徒

◎生徒にがんばってほしいこと

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・体力向上に努める・集団としての学習規律を守る・課題を発見し、主体的に学習に取り組める・苦手なことや嫌いな種目でも進んで取り組める・係などの分担された役割を果たせる |
|--|

◎学習内容

1 学期	2 学期	3 学期
<ul style="list-style-type: none">○体づくり運動○体育理論○陸上競技 (短距離走・リレー)○器械運動（マット運動）○水泳○新体力テスト○保健	<ul style="list-style-type: none">○体づくり運動○ダンス○球技 (バレーボール・ソフトボール)○陸上競技（長距離走）○体育祭の取り組み○保健	<ul style="list-style-type: none">○体育理論○柔道○球技 (サッカー・バスケットボール)○保健

◎評価について

評価の観点は、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度、の3観点とする。

知識・技能	運動技能、単元ごとの技能の到達度や記録値、動きを獲得している姿 定期テストなど
思考・判断・表現	学習カード内容、活動内容（課題解決の取り組み）、設定された活動を自分なりに工夫し行動や言葉として表出される姿勢など
主体的に学習に取り組む態度	授業の用具の準備・片付けをしっかりと行っているか。 授業への課題解決に向けて進んで取り組もうとする姿勢

技術・家庭科（技術分野）シラバス

技術・家庭科で目指すこと

☆ 技術・家庭科の目標 ☆

見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を身に付けることをねらいとしています。

☆ 技術分野の目標 ☆

技術の見方・考え方を働かせ、技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を身に付けることをねらいとしています。

☆ 技術・家庭科の授業でどんな学力をつけるのか ☆

- 生活と技術についての基礎的な知識や技能を身に付ける。
- 生活や社会の中から問題を見つけ、解決策を考え、その実践の評価・改善をするなど、課題を解決する力を身に付ける。
- 将来にわたって生活を工夫したり、創造したりしようとする気持ちを身に付ける。

3年間で学習する内容【1、2年生】 ()内の数字は授業時数

第一学年	生活や社会における技術の役割 (3)	B 生物育成の技術 (13)	A 材料と加工の技術 (19)
第二学年	D 情報の技術 (デジタル化による情報処理のしくみ) (16)	C エネルギー変換に関する技術 (照明機器の製作) (19)	
第三学年	D 情報の技術 (プログラムによる計測・制御、双方向性のあるコンテンツのプログラミング) (17.5)		

授業の約束事

<p>☆ 持ち物 ☆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書（技術・家庭 技術分野） ・筆記用具、技術授業ファイル ・その他、授業で指示されたもの <p>※ 教科書は3年間使用します。ノート兼用のプリント、ファイルを配布します。</p>	<p>☆ その他 ☆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術室での授業はジャージ（上下）で受ける。 ・パソコン室での授業は制服。(学校のルールに準じる) ・忘れ物をしない。 ・話はしっかり聞く
---	---

評価の観点・方法

技術・家庭科は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点をそれぞれABCの三段階で評価をします。

① 知識・技能

テスト（ペーパーテスト、実技テスト）、製作品（製作過程、完成）の様子、発言やレポートの内容などを材料に評価します。

基本的な知識が理解され、それを使った基礎的な技術が身についているかを評価します。

② 思考・判断・表現

学習ノートや発言、レポート（ワークシート、技家クラスルーム等）の内容、作業計画表や記録カードの内容、テスト（ペーパーテスト、実技テスト）などを材料に評価します。

技術の見方・考え方を働かせて、問題を見だし、解決できる力について評価します。

③ 主体的に学習に取り組む態度

授業の取り組みの様子、学習ノートや振り返りカード、作業記録カードの内容、レポート（ワークシート、技家クラスルーム等）の内容などを材料に多面的に評価します。

自分なりの考え方で解決策を考えたり、その実践を振り返りより、良いものになるよう改善・修正しようとしたりする態度について評価します。

以上の3つの観点を総合し、5段階で評定します。

☆ 各学年での授業・テスト ☆

◎ 1、2年生

前後期制で技術分野、家庭分野を週2時間ずつ行います。定期テストは2学期中間期（10月頃）と学年末にそれぞれの分野の内容の100点満点のテストを行います。通知表の評定は2学期末に前期の分野、3学期末に後期の分野を5段階で評定します。観点についても同様に3段階で評価します。なお、学年評定については両分野を総合した評価・評定を出します。

◎ 3年生

技術分野と家庭分野で週に1時間なので、隔週で分野を入れ替えて交互に学習します。その他は昨年度と同様に、定期テストは各学期末、配点は技術分野50点、家庭分野50点です。通知表の評定は技術分野と家庭分野を合わせて5段階、観点についても同様に3段階で評価します。

技術・家庭科（家庭分野）シラバス

技術・家庭科で目指すこと

☆ 技術・家庭科の目標 ☆

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を身につけることをねらいとしています。

☆ 家庭分野の目標 ☆

- 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な知識と技能を身につける。
- 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を見通して課題を解決する力を身につける。
- 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を身につける。

☆ 技術・家庭科の授業でどんな学力をつけるのか ☆

- 生活と技術についての基礎的な知識や技能を身につける。
- 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を身につける。
- よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を身につける。

3年間で学習する内容

第一学年	B 衣食住の生活 (4) 衣服の洗濯と手入れ (5) 生活を豊かにするための布を用いた制作 (6) 住居の機能と安全な住まい方		
第二学年	A 家族・家庭生活 (1) 自分の成長と家族・家庭生活	B 衣食住の生活 (1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴 (2) 中学生に必要な栄養を満たす食事 (3) 日常食の調理と地域の食文化	C 消費生活と環境 (1) 金銭の管理と購入 (2) 消費者の権利と責任
第三学年	A 家族・家庭生活 (1) 自分の成長と家族・家庭生活 (2) 幼児の生活と家族 (3) 家族・家庭や地域との関わり		

授業の約束事

<p>☆ 持ち物 ☆</p> <ul style="list-style-type: none">・教科書（技術・家庭 家庭分野）・ワーク・A4ノート <p>※ 教科書は3年間使用します。</p>	<p>☆ その他 ☆</p> <ul style="list-style-type: none">・実習（調理・被服）の授業はジャージ（上下）で受ける。・いつもの持ち物以外に、裁縫道具や調理実習の身支度など、必要な時にはその都度連絡します。・1週間に2時間（3年生は2週間に1時間）しかない授業です。集中してしっかり話を聞き、意欲的に取り組みましょう。
--	--

評価の観点・方法

技術・家庭科は、「主体的に学習に取り組む態度」「思考・判断・表現」「知識・技能」の3つの観点をそれぞれA B Cの三段階で評価をします。

① 知識・技能

【評価方法】テスト（ペーパーテスト・実技テスト）、製作品（製作過程・完成）の様子
発言やレポートの内容などを材料に評価します。

基礎的な知識が理解され、それを使った基礎的な技術が身についているかを評価します。

② 思考・判断・表現

【評価方法】学習ノートや発言、レポート（ワークシート、技家ルーム等）の内容、作業計画表や記録カードの内容、テスト（ペーパーテスト・実技テスト）などを材料に評価します。生活の見方・考え方を働かせて、問題を見だし、解決できる力について評価します。

③ 主体的に取り組む態度

【評価方法】授業の取り組みの様子、学習ノートや振り返りカード、作業記録カードの内容
レポート（ワークシート・技家クラスルーム等）の内容などを材料に多面的に評価
します。自分なりの考え方で解決策を考えたり、その実践を振り返り、より良いものになるよう改善・修正しようとしたりする態度について評価します。

以上の3つの観点を総合し、5段階で評定します。

☆ 各学年での授業・テスト ☆

◎ 1、2年生

技術・家庭科の授業は、前期・後期の2期制です。週1回2時間続きで行います。前期の定期テストは2学期中間、後期のテストは学年末に行います。（配点は100点満点）通知表の評定は、前期は2学期末、後期は3学期末に行います。学年末の評定は技術分野と家庭分野を合わせて、5段階で評定します。観点についても同様です。

◎ 3年生

技術分野と家庭分野を1週間おきに（隔週で）交互に行います。

（年間17.5時間ずつしかありません）

定期テストは各学期末に行います。配点は技術分野50点、家庭分野50点です。通知表の評定は技術分野と家庭分野を合わせて、5段階で評定します。観点についても同様です。

1学年の目標

英語学習を通して言語や文化への関心を高め、自ら学ぶ学習態度を身につける。聞くこと、話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養うと同時に積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成と異文化を理解する広い視野を身につける。
初歩的な英語を用いて身近で簡単なことについて話したり書いたり、初歩的な英語を聞いたり読んだりして内容を理解するなど、英語に慣れ親しみ興味・関心を育て生涯学習へと発展させる。

評価の観点・方法

◆知識・技能

定期テスト、ノート、ワークシート、パフォーマンステスト、提出物の内容、授業態度 など

◆思考・判断・表現

定期テスト、ノート、ワークシート、パフォーマンステスト、授業態度 など

◆主体的に学習に取り組む態度

提出物の内容、ノート、ワークシート、挙手発言の積極性、パフォーマンステスト、授業態度 など

評価の観点・方法

- (1)基礎・基本の定着を目指し、チャイム着席・忘れ物点検を毎時間行う。聞いたり、話したりする力を伸ばす。
- (2)積極的なコミュニケーション能力を高めるために振り返りシーを用い、英会話と、ビンゴや暗唱、スキット作成などに力を入れる。
- (3)家庭学習支援プリント(単語・文型練習)をやらせることで家庭学習の定着をはかる。

	学習すること	学習のねらい
4	オリエンテーション Get Ready	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の学習の見通しを持つ。 ・積極的に友だちに話しかけたり、相手の話を聞いたりする。 ・英語らしい音に慣れる。
	PROGRAM 0 アルファベットを確かめよう つづりと発音	<ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットを正しく発音したり、書いたりする。 ・発音とつづりの関係に興味を持つ。
5	PROGRAM 1 友だちを作ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする。 ・be動詞や疑問詞 where の用法を正しく身につけ、運用する。
	PROGRAM 2 1-B の生徒たち	<ul style="list-style-type: none"> ・一般動詞や疑問詞 when の用法を正しく身につけ、自分の好きなことやふだんすることについて表現する。
6	PROGRAM 3 タレントショーを開こう Our Project 1 あなたの知らない私	<ul style="list-style-type: none"> ・WhatやCan の用法を正しく理解し運用する。 ・Be 動詞、一般動詞などを用いて自己紹介文を作成する。
7	PROGRAM 4 Let's Enjoy Japanese Culture	<ul style="list-style-type: none"> ・This is / That isの表現を正しく身につけ、運用する。 ・代名詞や疑問詞 who の用法を正しく理解し、運用する。
9	PROGRAM 5 The Junior Safety Patrol	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者が主語になる場合の一般動詞の用法を正しく理解し、運用する。
10	PROGRAM 6 The Way to School	<ul style="list-style-type: none"> ・why, becauseを使った表現を正しく理解し、運用する。 ・代名詞の変化を覚えて使えるようにする。
11	PROGRAM 7 Research on Austraria	<ul style="list-style-type: none"> ・There is/There are や疑問詞 how の用法について正しく理解し、運用する。
	Our Project 2 この人を知っていますか	<ul style="list-style-type: none"> ・3単現、人称代名詞などを用いて、人物を紹介する。
12	PROGRAM 8 The Year-End Events	<ul style="list-style-type: none"> ・今していることを表す表現を正しく理解し、運用する。
1	PROGRAM 9 A Trip to Finland	<ul style="list-style-type: none"> ・一般動詞の過去形を使った表現を正しく理解し運用する。
2	PRPROGRAM 10 Grandma Baba's Warming Ideas!	<ul style="list-style-type: none"> ・be動詞の過去形や過去進行形を使った表現を理解し、運用する。
3	Our Project 3 私が選んだ1枚	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習した表現を使い、思い出の写真を紹介する。